

バルコ 寺山修司生誕80年 音楽劇「レミング～世界の涯まで連れてって～」

12月6日(日)～20日(日) プレイハウス

詳細はP13へ

寺山修司生誕80周年を飾る代表作の深化形・東京芸術劇場に堂々登場



10代で歌人、詩人として世に出て以来、演劇、映画、評論など表現方法もジャンルも軽やかに横断し、70年代当時の日本、その既存の価値観をことごとく覆したマルチクリエイター寺山修司。『レミング～世界の涯まで連れてって～』(1979年初演)は、その寺山が主宰した『演劇実験室●天井桟敷』の最終公演(83年)としても上演された代表作だ。

舞台は東京品川区五反田の安アパート。中華料理の見習いコックと、畳の下には彼らの母親が住む一室の仕切り壁が、ある日忽然と消えてしまう。壁の消えた部屋は、部屋であることを忘れたかのように奇妙な訪問者を次々に呼び寄せ、やがては病院や映画の撮影所、海外とおぼしき牢獄とも繋がっていく……という幻惑的な劇世界は、「寺山修司ならではの都市論」として初演当時から高い評価を受けた。

寺山没後30年の2013年には、関西野外劇の雄「維新派」率いる松本雄吉を演出に迎えて上演。上演台本も松本と、名古屋の「少年王者館」主宰で、

作:寺山修司 演出:松本雄吉(維新派) 上演台本:松本雄吉/天野天街(少年王者館)
出演:溝端淳平 柄本時生 霧矢大夢 鷹 赤児 ほか

主催:バルコ
共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇eyes てがみ座「地を渡る舟 -1945/アチック・ミュージアムと記者たち-」

10月23日(金)～11月1日(日) シアターイースト

詳細はP10へ



2013年初演より

撮影:伊藤雅章

作:長田育恵 演出:扇田拓也
出演:福田温子/今泉 舞/箱田暁史/清水 伸/俵木藤汰/松本紀保/三津谷 亮/川面千晶/近藤フク/森 啓一朗/
伊東 潤/中村シュン/西山水木

主催:てがみ座
提携:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)



Art Direction 名久井真子/Photo 江森康之

Interview 藤田貴大

寺山の言葉の強さを信じて。

動くたびに大きく深い波紋を起こす、マームとジブシーの藤田貴大。今回は、60～70年代の日本の戯曲に若手演出家が挑む人気企画「Roots」で、寺山修司の『書を捨てよ町へ出よう』を演出する。

『書を捨てよ～』は、タイトル自体が作品

小学4年生から高校卒業まで地元・北海道の市民劇団に在籍し、演劇に造詣の深い大人に囲まれて育った藤田貴大は、現在30歳だが、寺山修司の名前はごく自然に認識していたという。具体的な作品に触れるようになったのは高校生の頃。演劇人としてよりも詩人、歌人としての寺山に惹かれた。

「当時はサブカル、中でもビートニクスが好きでいろいろな本を読んでいたんですが、寺山さんの名前はその流れでも出てくるんです。言葉のセンスがすごいのはもちろん、ビートニクスの“残酷なものを描きながらも詩的な部分がある”という点でも、寺山さんは素晴らしい。美しい言葉を使っているのに、見てはいけないものを覗いて描いたり、きれいな人の汚いところを描いたりする。相反するもの同士の葛藤を感じて、そこがおもしろいと思っていました」

「Roots」で寺山作品を、という企画を受けて迷わず選んだのは『書を捨てよ町へ出よう』だった。

「お話をいただいたのが、野田秀樹さんの『小指の思い出』に取り組んでいた時で、言葉も構造もすごくガッチリした作品と向き合っていたこともあって、次はもう少し自由に僕の演出——テキストを1度断片にして編集するやり方です——に寄せられるものがあったんです。『書を捨てよ～』は、映画も舞台も本もあるけど、タイトル自体が作品になっていて、内容(の統一)にはこだわっていない気がするんです。でもタイトルが寺山さんの精神そのもので格好いい。野田さんとは違うロマンチックな感じがあって、それを大切にしたいです」

ベースにする映画版は、19歳の少年の、与えられるものは拒み、欲しいものには手が伸ばせない鬱屈した日々が中心に描かれるが、ドキュメントタッチのインタビューやイメージ映像が唐突に差し挟まれる。その奔放さを受け継ぎ、ユニークなつくり方をするらしい。

「主演の村上虹郎くん、映像出演の穂村弘さんや又吉直樹さん達とそれぞれ一緒に映画の『書を捨てよ～』を観ようと思っているんです。その時にレコーダーを回して、その人達と話したことを書き起こしてテキストに使ったり、

12月5日(土)～27日(日)シアターイースト

作:寺山修司 上演台本・演出:藤田貴大(マームとジブシー)

出演:村上虹郎 青柳いづみ 川崎ゆり子 斎藤摩子 召田実子 吉田聡子 石井亮介 尾野島慎太郎 中島広隆 波佐谷聡 船津健太/山本達久(ドラマー)

映像出演:穂村弘(歌人)/又吉直樹(芸人)

取材・文:徳永京子

詳細はP13へ

一般発売:10月17日(土)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)